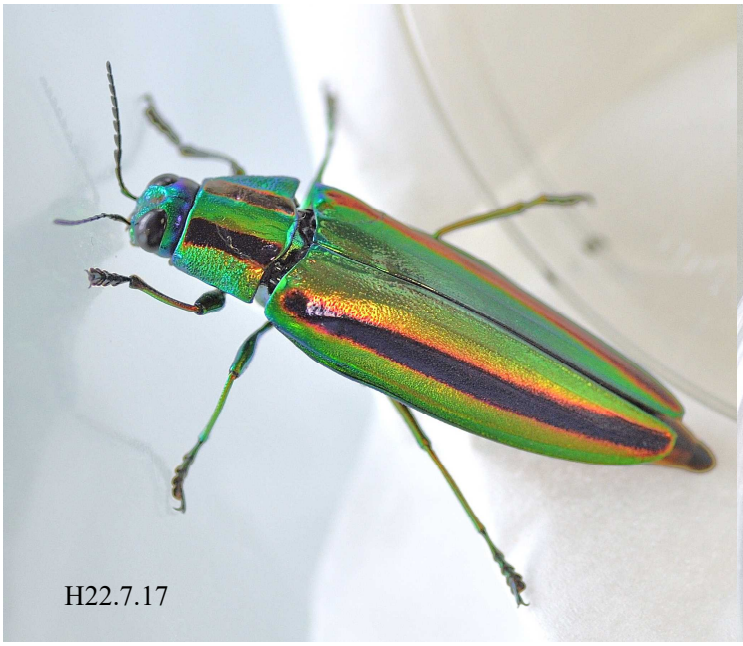
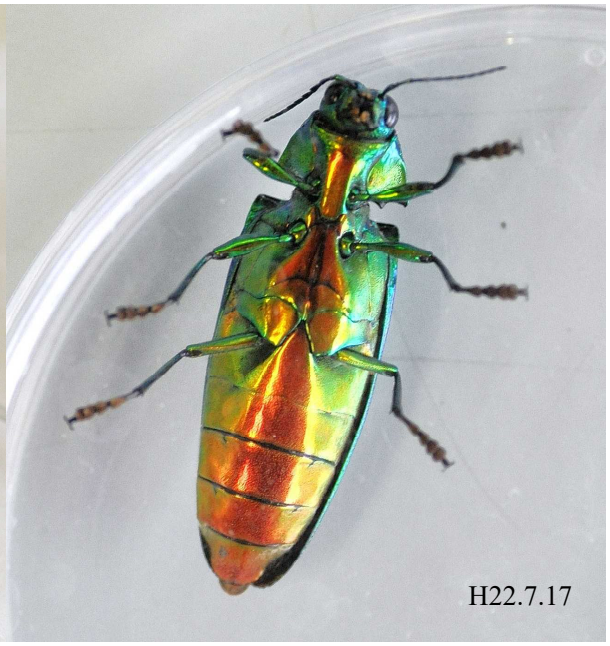
タマムシの飛ぶ夏





７月１６日（金）、**猛暑の昼休み**、高３年３組の**猪熊君たち**が、「踏みつぶしそうになりました」と生物準備室に生きている「タマムシ（**ヤマトタマムシ**）」（体長５ｃｍ程度）を持ってきてくれた。タマムシの知名度は極めて高いが、実物を見る機会はほとんどない。猪熊君たちの行動は表彰状ものである。

写真のように、タマムシには、全体に緑色の金属光沢があり、光の加減で微妙に色彩が変化する赤から黒の縦じまが入っている。まさしくこれが**玉虫色**なのである。タマムシの表面には薄い特殊な膜が重なっており、光の干渉と回折から**構造色**と呼ばれる色彩が生み出される。光を当てる角度によっては、色が消えてしまうこともある。葉っぱが緑色の光を反射して緑色に見えるような通常の色とは根本的に異なるのである。

玉虫色は、見方や立場によっていろいろに解釈できるあいまいな表現の例えとして使われるが、実際にタマムシを見てみると、本当に言い得て妙なのである。また、この色彩は死んでも変化しないので、法隆寺の宝物『**玉虫厨子**（たまむしずし＝仏像・舎利・経巻を安置する仏具）』の装飾として、翅が使われていることでも有名である。

昆虫に詳しい高３年２組の**亀田君**によると、「タマムシは実際には何種類もあり、これは最もよく見かけるヤマトタマムシである。この辺りでも**ケヤキやエノキ**などの広葉樹の下などを探すと見つけることができるが、そう簡単に見つかるものではない。」ということで、昆虫好きの興味を引く昆虫であったことは間違いない。さらに調べてみると、「タマムシの成虫は７～８月に現れ、**よく晴れた日の昼頃**、エノキなどの高い梢を飛ぶ姿が見られる。」（『昆虫の食草・食樹ハンドブック』森上信夫・林将之著　文一総合出版）とのことである。つまり、夏の最も暑い盛りの昼頃に樹木の上空を飛び回る昆虫なのである。猪熊君たちがタマムシを捕まえた時の時刻と気象条件ともぴったり合っている。

タマムシの飛ぶ暑い夏。夏の使者からの暑いメッセージを受け取った受験生たちの**夏励み**を期待している。